

# 模擬授業研究会の斉藤メモ(2019年12月19日)

授業者：〇〇

範囲：日本の安全保障と平和主義のこれから

## 主な感想・代案

- 資料作りに時間をかけたのだろうということが伝わってきます。生徒に迷ってほしいという意図もよく伝わってきます。
  - 個人的には、日本国の主張を選ぶ生徒が少ないのは、選択肢の情報にも影響を受けていると思います。例えば、集団的自衛権を可か不可かと聞けば、良くないと答える生徒はいるかもしれませんが、ただ、PKOの平和維持活動に対してそんなに悪い印象を持つ生徒は多くないし、現状で既に行っていることを見聞きしていることもあるかもしれません。そうした場合、国際協力を一切しないという立場は、PKOも否定することになるので、おそらく国際的にわがままに見えるし、ある意味で、集団的自衛権の問題とPKOの問題を混同して考えさせるような形になったように思います。それ故に、特に日本を選びにくくなったと思います。
  - やや論争的なテーマを扱っている本授業。そういった論争的な問題を扱う場合、この授業の最終的な狙い、ここだけは押さえてほしいという点がどこなのかということが重要になると思います。その点、「検証シート」の優先事項の中核の欄には、「平和主義は完ぺきではなく、時には弊害にもなることもある。平和を実現するのは難しい。」と書かれています。この内容がさす意味をもう少し深めたいなと個人的には思いました。平和主義は憲法で明記された価値であり、社会科の授業として、それ自体が頭から否定されることは望ましくない。ただ、確かに改憲論議でもあるように、憲法のあり方自体をもう一度捉えなおそうとする動きや、「積極的平和主義」と称して、憲法の解釈を従来よりも広げて捉える動きもある。憲法が個人・市民が政府権力の暴走を防ぐための道具だとすれば、憲法の価値自体は尊重されるべき。ただ、憲法のあり方をめぐっては論争がある。そういった点を生徒に伝えられるようにする必要があるかと思えます。
  - そう考えた時、憲法のあり方を考えるという意味では、選択肢の比較をする際に、判断する軸のようなものが選びづらかったかなと思います。判断軸という点で言えば、この日本の自衛隊の問題を、日本人の視点から考えるべきか、国際的な視点から考えるべきかが不明瞭であった点。また、国際的といっても、思想の秘右左も含め、意見の多様性が見えにくくなったように思います。おそらく生徒も、思ったことをダイレクトに口にするのは躊躇する場合もあるかもしれない(生徒役の皆さんも同じ心境になった人もいるかもしれない)とすれば、尚更選びやすい選択肢を提示する必要があるかと思えます。
- ⇒ 仮に私がこの論点で討論するのだとすれば、世界平和を願うのは誰も同じという前提のもと、「世界の平和を目指すために、日本は平和主義をどう捉えるべきか？」にします。PKOの話は少し置いておいて、「従来の意味での平和主義を貫く国があることによって、世界平和に資するという考え方」と、「実際に戦争・紛争が起こっている(起こりかけている)国にも関わっていくことが、世界平和に資するという考え方」(後者の立場は積極的平和主義の発想です。)の二極化をした上で、〇〇君がやっているような、それぞれの主張を根拠づける資料を載せて、考えさせるかもしれません。
- ⇒ ある種、現実よりもシンプルにした討論を行った後に、日本のジレンマ的状况を教師が少し説明します。一つ目は、財政的支援による国際協力だけで良いのかという問題。この際にPKOの話もします。もう一つは、アメリカの軍事力に事実上頼っていることによるジレンマ。後者の問題は沖縄の米軍基地問題とも関わり、非常に繊細な問題なので、生徒にダイレクトに話し合わせるより、教師の私見を述べる方が私個人としては良いように思います。また、意見表明よりも、問題分析に重点を置く方が、「個人的には」良い気もします。

## 【コラム】理論と実践の接点

憲法の問題を扱う際に、立憲主義公民学習論を提案している中原(2015)は、日本の憲法学習の多くが、「子どもたちを一時的な社会化の対象に押しとどめている」と批判的に述べたうえで、①憲法規範を理解していく段階②憲法規範を分析し、批判的に吟味する段階、③政治の実態を研究し、自己の見解を形成していく段階、の三段階を挙げています。この第3段階に行く際に、第二段階が非常に重要になってくるようにも思います。最終的には憲法的価値を自立的に考えられる子供を育てたいが、その段階にどう持っていくかが問われる気がします。

【参考文献】中原朋生(2015)『現代アメリカ立憲主義公民学習論研究』風間書房